

令和2年度 ESD実践事業報告

令和3年1月26日
市川市立稲越小学校

0. はじめに

本校では、2010年度よりユネスコスクールとして、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を推進している。これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、自分の身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動を学校全体・各学年で行っている。本年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、これまで継続して行ってきた活動が実施できなかったもの、活動を工夫して実施したもの、活動がを広げたものとあるが、今回は本校の4年生が取り組んだ「環境教育」（総合的な学習の時間）についての学習活動の検証を行う。

1 テーマ 私たちに何ができる？

～「環境学習」を通してのESD・SDGsの実現を目指して～

2 目標

○課題解決を目指し活動する中で、課題解決に必要な能力を育てる。

<育てたい資質・能力>

○持続可能な開発に関する価値観

(人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)

○体系的な思考力(問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)

3 目指す目標 (SDGs)

13 気候変動に具体的な対策を

15 陸の豊かさを守ろう

4 研究仮説

- ① 児童が知的好奇心を持ち、探求したいと思う課題の設定をすれば、主体的に課題解決にのぞむであろう。
- ② 課題解決に向けて、学習課程(情報の収集・整理・分析・まとめ・発信)を充実させれば論理的思考力を身に付させることができるであろう。

5 検証の方法

- ① 調べ学習やゲストティーチャーによる指導をまとめたパワーポイントでの発表・作成した資料
- ② 自分たちで考えたエコ活動の実践（行動化）

6 活動内容

○総合的な学習の時間 「環境問題について調べよう①」（4・5月）

- ・環境問題についての調べ学習をする。
- ・全国エコ絵画コンクールへの参加 SG ホールディング/佐川急便
※絵にエコメッセージを表す。



○総合的な学習の時間（7月）

- ・調べたことの整理・発表
※パワーポイントで資料を作成。少人数で発表。



○総合的な学習の時間 「環境問題について調べよう②」（12・1月）

- ・環境問題についてのさらに詳しく、または新しく調べ学習をする。
- ・エコスクールへの参加（映像視聴） 日本経済新聞社主催



・北極・南極の講話

講師：日本極地研究所 名誉教授 本吉先生



・朝日新聞社、旭化成も方による講話・実験



○総合的な学習の時間 「自分たちにできることを考え、行動しよう」(1月・2月)

- ・エコクッキング
- ・地域でのゴミ拾い など

7 成果

- 環境問題について調べることで、自然、大気、水、廃棄物、エネルギー、文化、食、住居、人口など、多様なことを知る機会となったこと。
- 発表方法を工夫したことで子供たちの意欲が高まったこと。

8 課題

- 環境問題に対する継続的な活動の実践。
- 自分たちができることの行動化のバリエーション。
- 同じ外部講師を依頼することができないため、毎年指導いただける講師の発掘。

市川市立稲越小学校

活動分野：気候変動, 環境, 防災, 食育

2020年度活動報告

本校は、「かしこく 優しく ねばり強く」を学校教育目標にその具現化のために教育活動を推進している。ESDを持続可能な社会の創り手の児童育成のための教育活動と捉え、ESDを実践し、4つの能力と3つの態度の育成を目標としている。具体的には、「縦割り活動」（異学年集団）、「包括的な健康教育」、「環境学習」を柱に①ひばりまつり（演劇発表会）に関わる活動、②食育に関わる活動 ③4年生の「環境学習」に関わる活動を行った。本年度は新型コロナウイルス感染防止に努めながらの活動のため、活動内容、活動回数、時期などこれまでの状況と異なることが多かったが、それでも活動方法を工夫をし、実践に努めた。

①「縦割り活動」（異学年集団）〈ひばりまつり〉

ひばりまつりでは、全校児童が210名（11月末現在）を6つのグループ分け、6年生を中心とし、演劇を発表する。準備や練習の中で、高学年の児童は、低学年の見本となることやグループ内の調和を意識して行動する。低学年の児童も模範となる上級生の立ち振る舞いを見ながら憧れを抱き、リーダーのイメージをつかんでいる。

②包括的な健康教育に係る活動（食育）

制限ある生活（給食・調理実習など）の中で「地域で培われた食文化を体験し、郷土への関心を深めると共に、食に関する指導などで、正しい食生活の啓発をする」を目標に、日本人としての食事のマナーを身に付けること又、子どもたちが将来にわたって望ましい食生活や食習慣をおくるための実践的な態度を身に付けさせることを目的して取り組んでいる。

③4年生「環境問題」に係る学習

SDGsの実現に向けて、系統的に環境問題を学習して。児童の興味・関心のあるテーマについて調べ、パワーポイントを使い発表した。エコ絵画にも取り組み、コンクールに参加した。さらにゲストティーチャーを2組招き、環境問題についての講話をしていただき、知識や考えを広げた。まとめとして個人や集団にできることを考え、行動化する。

（ゴミ拾い、節電・節水など）その他、防災マップ作りにも、市の地域防災課の職員の方にインタビューをし、フィールドワークを行い、作成した。

2021年度活動計画

まだまだコロナとの戦いは続くが、学校教育目標の具現化を目指す教育活動の中で、新学習指導要領の身につけるべき資質・能力の育成とユネスコスクールで目指す力を関連づけていくのか、どのように持続可能な教育に取り組んでいくか、年度末の話し合いを生かし、カリキュラムマネジメントを行い、教育活動を実践していく。

令和3年度の行事・活動としては、

①異年齢集団による活動では、

○全校遠足 ○運動会 ○ひばりまつり ○おわかれ集会など

これまでの活動に一層の工夫改善を行っていく。

②須和田の丘小学部との交流及び共同学習では、お互いの教育課程を踏まえて、持続可能な共同学習として工夫改善を行っていく。

(行事) ○打ち水大作戦 ○小学部のお披露目会参観 ○合同避難訓練

(学習) 1年—生活科(シャボン玉) 2年—体育(音楽) 3年—海苔すき

4年—エコクッキング 5年—総合的な学習の時間(稲作) 6年—外国語科、縄文体験

③近隣の中学校・高校・大学、地域の方に学習や活動で支援いただく活動では、新学習指導要領の改訂に伴い、活動の精選を行い、効果的で実りのある活動の取り組んでいく。昨年度はできなかったが近隣の中学校・高校・大学、地域の方に学習に協力いただき、また関係機関や企業の協力も積極的に取り入れていく。